

Table of Contents

I. はじめに

II. 金剛山の語源

III. 曇無竭菩薩の由来

IV. 檜巖寺の由来

V. おわりに

IV. 檜巖寺の由来

指空：摩訶迦葉。迦葉仏と関わりのある一族



양주 회암사 조사전 내 지공 진영



指空の移動経路

IV. 檜巖寺の由来

指空の年代記

年代	人物	内容
1300	出生	釈迦牟尼仏の父王・浄飯王（正飯王）の弟である斛飯王の後裔。韓国系
1308年(8歳)	出家	インドのマガダ国(摩竭提国:現在のネパール南部)の王子出身。三兄弟の御子が出家すれば父王の病が癒えるとされた
1319年(19歳)	法統継承	スリランカ。師の命により迦葉系列の普明尊者の弟子となる。牧隠李穡が撰した『指空和尚浮屠銘并序』によれば、迦葉尊者の108代法孫
1320～1325年(26歳)	海外布教	北京に到着し、元の皇帝晋宗から積極的な歓迎を受け、「生まれ変わった仏」として崇められる
1326	高麗訪問	指空禅師の韓国内での足跡は、楊州檜巖寺、驪州神勒寺、梁山通度寺、曹溪山松広寺、光州無等山の指空禅師修道窟とノドルゲン、江華喬桐面華蓋寺など、当時の政治的僧侶が留まった都・開京(開城)を離れた奥深い山中寺院に見られる
		この寺にしばし留まり、その後弟子となった懶翁大師に命じて檜巖寺を大きく重創した。(般若禅VS看話禅)

IV. 檜巖寺の由来

金守溫의 「檜巖寺重創記」

김수온 「회암사중창기」 『拭疣集』 권2 “昔天曆間 西天博伽納提尊者 見此寺之基 以爲酷似西天阿蘭陀寺 且曰 迦葉佛時 已爲大道場 於是執繩量地 以定其位 時得劫前礎砌 當時暫庇屋宇 以識其叢而已 有玄陵王師普濟尊者 受指空三山兩水之記 遂來居此 乃欲大創 分授棟樑 奔走募緣 功未及半 而王師亦

曇無竭菩薩→過去仏→迦葉仏

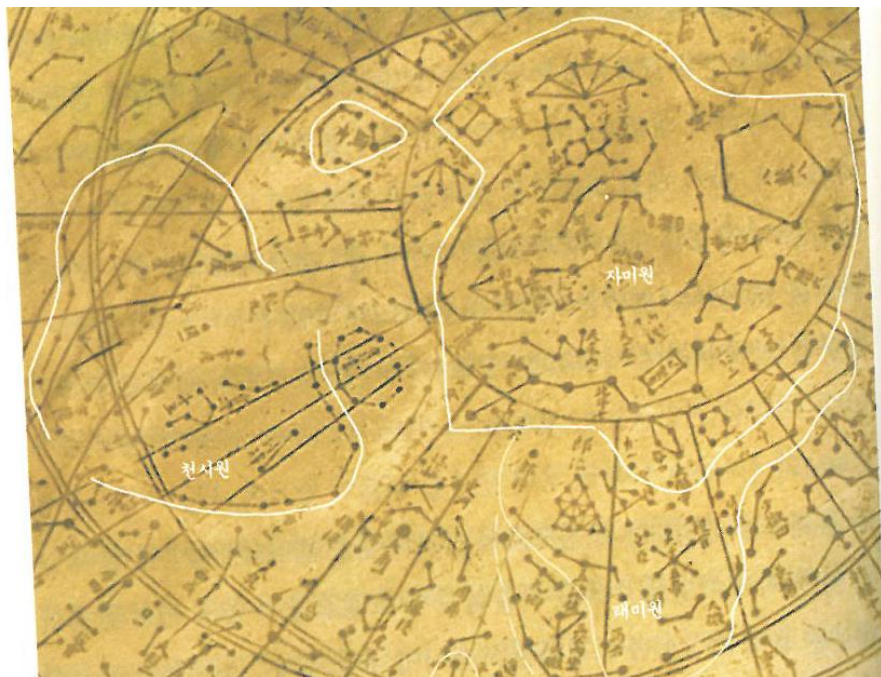
고려말 檜巖寺의 중건과 그 배경

金 澈 雄*

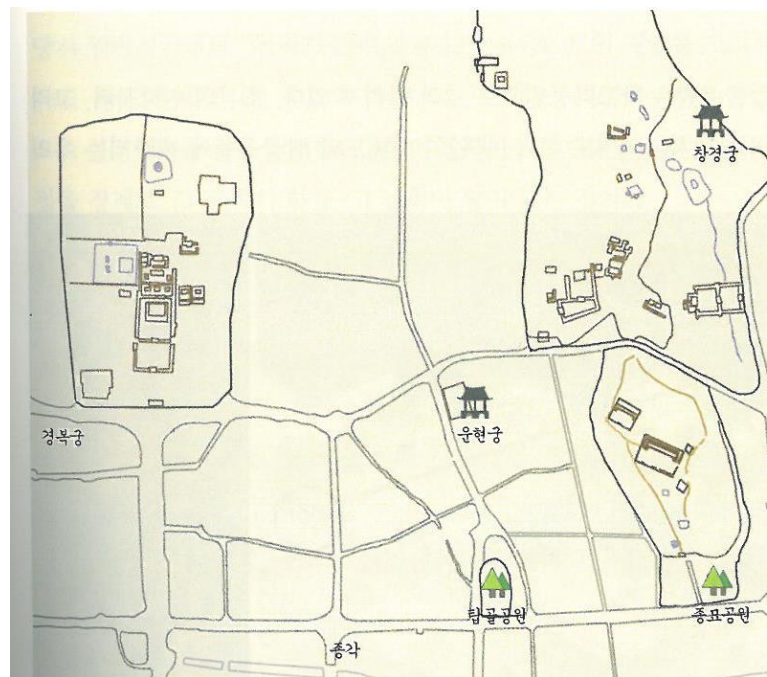
IV. 檜巖寺の由来

出典	内容	備考
三国史記 三国遺事	解夫妻が扶余の王であったとき、大臣の阿蘭弗の夢に天帝が現れ、「東海の手辺の迦葉原という所へ都を移せ」と命じたため、そこへ都を移すことにした。「東海の手辺に土地があり迦葉原という。土地が肥沃で五穀を育てるのに適しており、都とするに足るであろう」と言った	
無学訣	天皇・地皇・人皇の後、天下の大なる金山に六丈の金仏あり、よく言葉を発し、化して田女となる	
鄭京姫	迦葉仏は、新羅人が釈迦仏以前の韓国仙道の伝統における三聖を、仏教の過去仏である迦葉仏として表現したものであった。三聖のうち三番目が檀君であり、迦葉仏が多く過去の過去仏の中で釈迦仏の直前の仏である点を念頭に置けば、三聖の最後の檀君が迦葉仏として表現された可能性が考えられる。このように韓国仙道の三聖の伝統は、迦葉仏論へと姿を変えて仏教の伝統の中へ吸収された。このように過去の三聖に対する記憶が迦葉仏論へと摂化された一方、現在や未来の三眞覚性の可能性は未来仏、すなわち弥勒仏と結合した。弥勒仏思想は三国時代の仙・仏習合現象の中心となるほど極めて重視されたが、その中でも特に「弥勒下生思想」が中心となった。(三国時代の仙・仏習合の「弥勒思想」)	

IV. 檜巖寺の由来



▶ 3원이란 자미원, 천시원, 태미원을 말한다. 천상열차분야지도 목판본의 일부분에 3원의 위치를 표시해 보았다.



◀ 경복궁, 창덕궁 · 창경궁, 종묘 부근의 현재 지도. 38쪽의 사진에서 3원의 배치와 그 구도가 닮았다.

鄭泰民 『星座に隠された我らの歴史』 より

IV. 檜巖寺の由来

